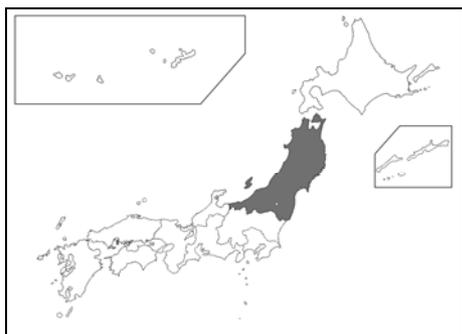


(2) 東北



東北地域では、景気は回復基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる。

- ・ 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる。
- ・ 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

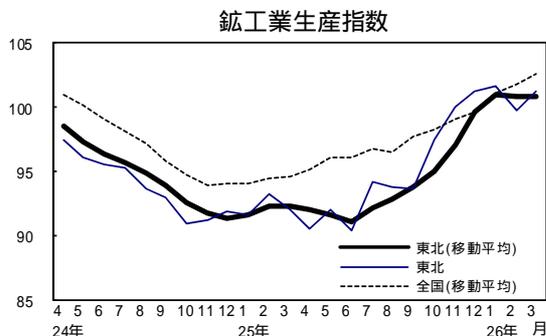
前回調査からの主要変更点

	前回(平成26年2月)	今回(平成26年5月)
景況判断	回復	回復基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる
鉱工業生産	増加	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる
個人消費	増加	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きとなっている

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる。

1～3月期には、電子部品・デバイスは、車載搭載向けにモス型半導体集積回路が好調だったこと等から増加した。はん用・生産用・業務用機械は、超硬工具が中国向けの輸出が好調だったこと等から増加した。食料品・たばこは、生菓子が前期の反動等で減少した。情報通信機械は、無線通信装置の工場が移転したこと等から減少した。輸送機械は、懸架制動装置部品が好調だったこと等から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

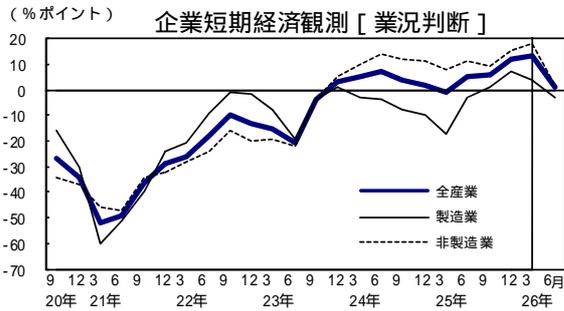
	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
電子部品・デバイス	16.9	5.1	6.6	5.9	0.9	3.6
はん用・生産用・業務用機械	14.7	20.0	3.7	5.3	1.5	0.4
食料品・たばこ	10.6	0.9	3.1	2.3	5.1	8.2
情報通信機械	9.2	5.5	4.1	0.4	9.1	6.3
輸送機械	8.3	0.1	5.8	7.6	3.1	3.2
鉱工業	100.0	6.1	1.3	0.4	1.8	1.4

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。
2. 全国及び東北の太線は後方3か月移動平均。

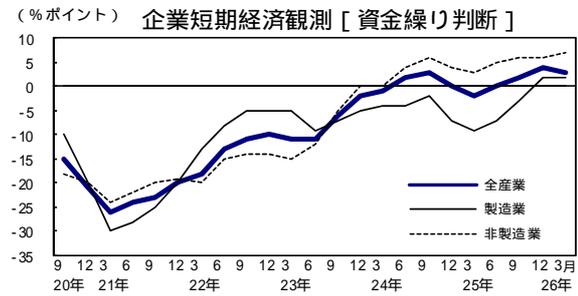
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1～3月期、3月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

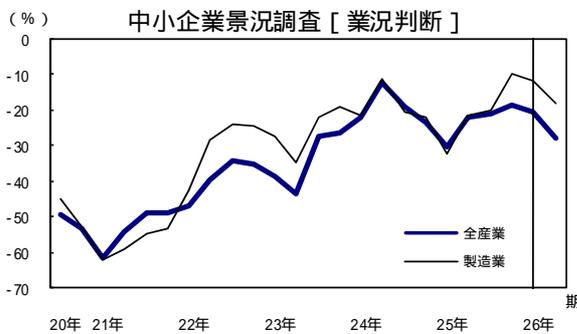
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年6月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

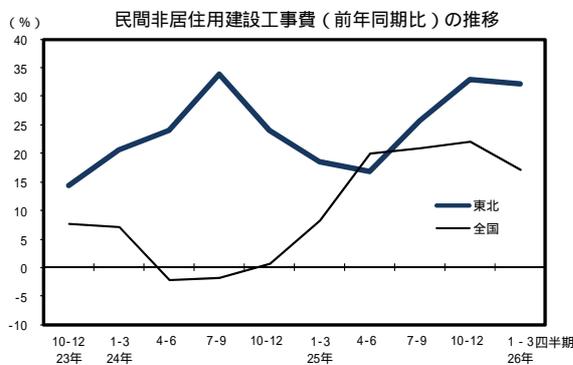


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「自動車部品については、消費税増税前の駆け込み需要の反動減の影響が出てきている。それに加えて新興国経済の陰りによって、輸出環境がやや悪化してきている(一般機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は、大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	25年度実績見込み	26年度計画
全産業	7.1(1.0)	4.7
製造業	13.6(0.7)	0.8
非製造業	0.7(1.3)	10.4

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きとなっている。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比1.8%減、2月は同2.3%増、3月は同5.7%増となった。

大型小売店販売額

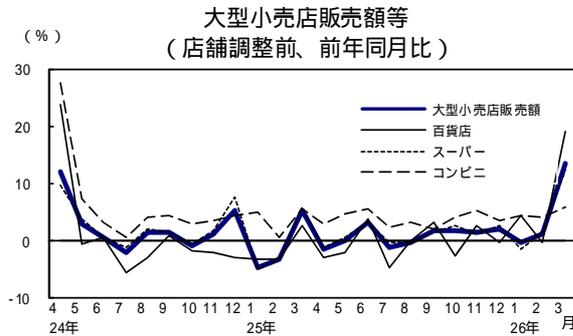
百貨店は、1月は、春物衣料が好調だったこと等から前年を上回った。2月は、春物衣料が天候の影響により不振だったことと等から前年を下回った。3月は、スーツやフォーマルウェアなどが好調だったことから前年を上回った。

スーパーは、主力の飲食料品で日持ちする調味料や冷凍食品が好調だったほか、その他の商品でティッシュペーパーや洗剤、化粧品などが好調だったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

東北地域の家計動向関連DIは、35.9となり前月より19.5ポイント低下した。

「消費税増税によるマイナスの影響が、3月の駆け込み需要のプラスの影響を上回り、トータルでマイナスの状況にある。特に、4月第1週の来客数及び販売点数に大きな影響が出ている(百貨店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

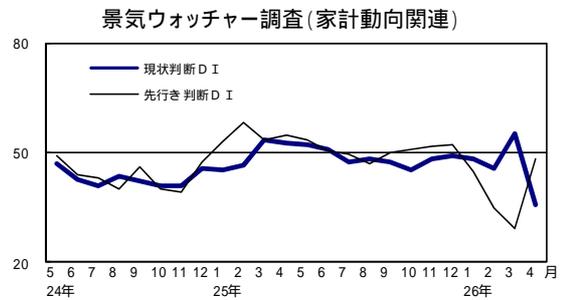
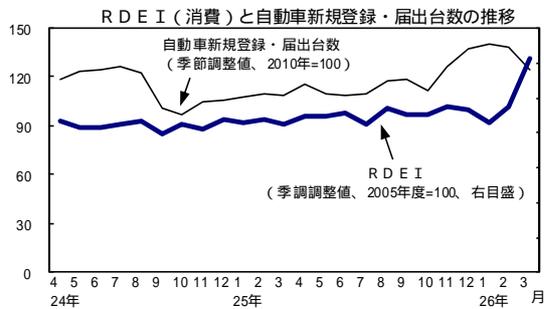


	26年1-3月	26年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.7	1.8	2.3	5.7
大型小売店(*2)	5.0	0.4	1.2	13.6
百貨店(*2)	8.6	4.5	0.2	18.9
スーパー(*2)	4.2	1.5	1.5	12.3
コンビニ(*2)	4.9	4.5	4.2	5.8
乗用車(*3)	22.1	30.7	26.6	15.1
(季節調整値)(*3)	7.7	2.6	1.4	9.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

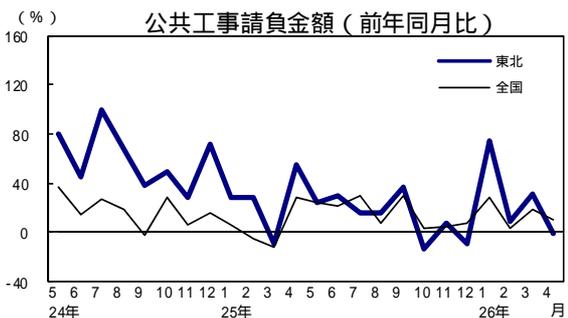
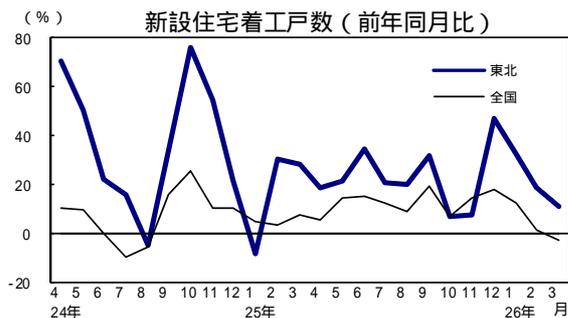
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

分譲が前年を下回ったものの、貸家が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

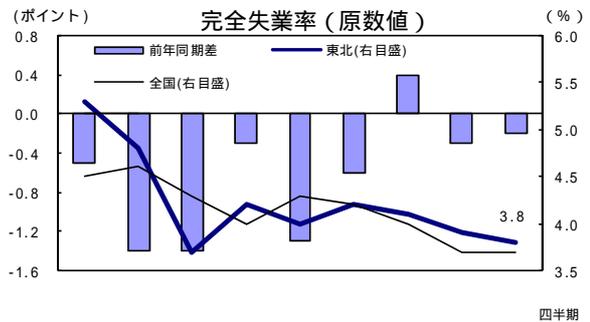
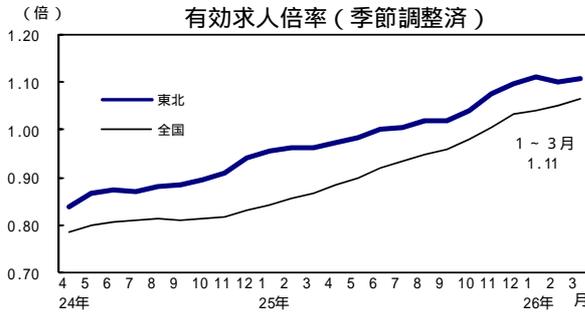


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考)24年1 - 3月期から24年7 - 9月期までの前年同期差は、補完推計値を用いて計算した参考値である。

景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連 (現状)]

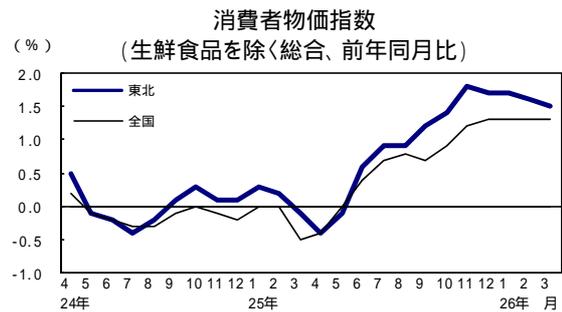
「求人数は増加しているものの、全国平均には及んでいない。また、正社員以外の求人の割合が高い (職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともにおおむね横ばいとなっている。

(3) 消費者物価指数は、縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	26年4月
倒産件数	118	113	120	117	42
(前年比)	4.1	3.4	0.0	7.1	16.7
負債総額	299	195	218	156	127
(前年比)	26.8	66.4	11.2	41.2	26.5



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・今年は雪解けが早かったため、客の動きも例年より早い。消費税増税の影響を懸念したが、飲食店などへ足を運ぶ消費者も増加傾向にあり、それに伴い全体的な販売量も増えている。特に今月はビール類の販売量が増加している。ただ、状況がいい店と悪い店の差が更にはっきりしている傾向がみられる (その他専門店 [酒])。

<先行き>

・5月以降の予約は多少入っている。しかし、消費税増税による出費の増加に対して消費者は防御の体制に入っていくとみられるので、2、3か月後は今月よりも渋い状況に変わっていくと予想している (一般レストラン)。

景気ウォッチャー調査
(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

